

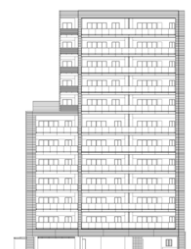
■ 建物概要		■ 外観	
建物名称	グランドオーク千葉城町	階数	地上12F
建設地	熊本県熊本市	構造	RC造
用途地域	第二種住居、準防火	平均居住人員	110 人
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2015年2月 予定	評価の実施日	2013年9月1日
敷地面積	1,686 m ²	作成者	満生 晃
建築面積	525 m ²	確認日	2013年9月1日
延床面積	3,607 m ²	確認者	前原 博

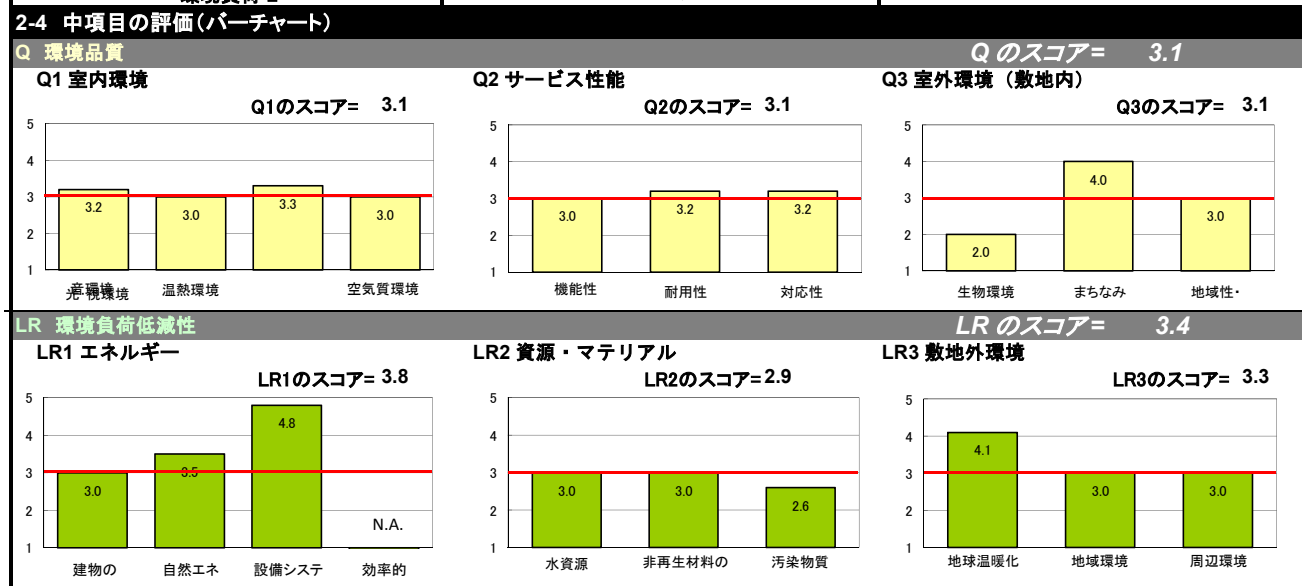
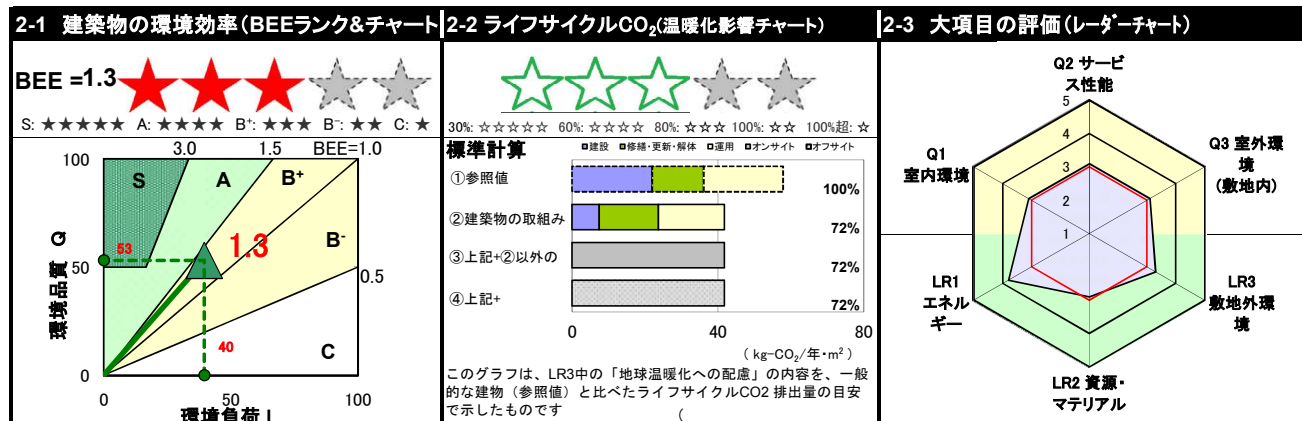
↑けてください。

72%

CASBEE® 熊本《新築》【評価結果】

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-新築(簡易版) 2010年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-NCb_2010(v.1.3)

1-1 建物概要				1-2 外観	
建物名称	グランドオーク千葉城町	階数	地上12F	 おけしてください。	
建設地	熊本県熊本市	構造	RC造		
用途地域	第二種住居、準防火	平均居住人員	110 人		
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	8,760 時間/年		
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価		
竣工年	2015年2月 予定	評価の実施日	2013年9月1日		
敷地面積	1,686 m ²	作成者	満生 晃		
建築面積	525 m ²	確認日	2013年9月1日		
延床面積	3,607 m ²	確認者	前原 博		



■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)

■ ライフサイクルCO₂とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-新築(簡易版)2010年版			欄に数値またはコメントを記入		■使用評価マニュアル: CASBEE-新築(簡易版) 2010年版		■評価ソフト: CASBEE-NCb_2010(v.1.3)					
グランドオーク千葉城町												
スコアシート			実施設計段階									
配慮項目			環境配慮設計の概要記入欄		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体			
					評価点	重み係数	評価点	重み係数				
Q 建築物の環境品質									3.1			
Q1 室内環境						0.40			3.1			
1 音環境					3.0	0.15	3.2	1.00	3.2			
1.1 騒音					3.0	0.50	3.0	0.50				
1 室内騒音レベル		3.0			1.00	3.0	0.50					
2 設備騒音対策		-			-	3.0	0.50					
1.2 遮音		3.0			0.50	3.5	0.50					
1 開口部遮音性能		3.0			1.00	3.0	0.30					
2 界壁遮音性能		-			-	4.0	0.30					
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-			-	4.0	0.20					
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-			-	3.0	0.20					
1.3 吸音		-			-	3.0	-					
2 温熱環境							3.0	0.35		3.0	1.00	3.0
2.1 室温制御					3.0	0.50	3.0	1.00				
1 室温		3.0			0.63	3.0	0.63					
2 負荷変動・追従制御性		-			-	-	-					
3 外皮性能		3.0			0.38	3.0	0.38					
4 ゾーン別制御性		3.0			-	-	-					
5 温度・湿度制御		-			-	-	-					
6 個別制御		-			-	-	-					
7 時間外空調に対する配慮		-			-	-	-					
8 監視システム		-			-	-	-					
2.2 湿度制御		3.0			0.20	-	-					
2.3 空調方式		3.0			0.30	-	-					
3 光・視環境							2.7	0.25		3.5	1.00	3.3
3.1 昼光利用							3.0	0.30		4.0	0.50	
1 昼光率		3.0					0.60	5.0		0.50		
2 方位別開口		-					-	3.0		0.30		
3 昼光利用設備		3.0	0.40	3.0			0.20					
3.2 グレア対策		2.0	0.30	3.0			0.50					
1 照明器具のグレア		-	-	-			-					
2 昼光制御		2.0	1.00	3.0			1.00					
3 映り込み対策		-	-	-			-					
3.3 照度		3.0	0.15	-			-					
3.4 照明制御		3.0	0.25	-			-					
4 空気質環境					3.0	0.25	3.0	1.00	3.0			
4.1 発生源対策					3.0	0.60	3.0	0.63				
1 化学汚染物質		3.0			1.00	3.0	1.00					
2 アスベスト対策		-			-	-	-					
3 ダニ・カビ等		-			-	-	-					
4 レジオネラ対策		-			-	-	-					
4.2 換気		3.0			0.40	3.0	0.38					
1 換気量		3.0			0.50	3.0	0.33					
2 自然換気性能		-			-	3.0	0.33					
3 取り入れ外気への配慮		3.0			0.50	3.0	0.33					
4 給気計画		-			-	-	-					
4.3 運用管理		-			-	-	-					
1 CO ₂ の監視		-			-	-	-					
2 喫煙の制御		-			-	-	-					
Q2 サービス性能							-	0.30		-	-	3.1
1 機能性							3.0	0.40		3.0	1.00	3.0
1.1 機能性・使いやすさ					3.0	0.40	3.0	0.60				
1 広さ・収納性		-			-	-	-					
2 高度情報通信設備対応		-			-	3.0	1.00					
3 バリアフリー計画		3.0			1.00	-	-					
1.2 心理性・快適性		3.0			0.30	3.0	0.40					
1 広さ感・景観		3.0			-	3.0	0.50					
2 リフレッシュスペース		-			-	-	-					
3 内装計画		3.0			1.00	3.0	0.50					
1.3 維持管理		3.0			0.30	-	-					
1 維持管理に配慮した設計		3.0			0.50	-	-					
2 維持管理用機能の確保		3.0	0.50	-	-							
3 衛生管理業務		-	-	-	-							
2 耐用性・信頼性					3.2	0.31	-	-	3.2			
2.1 耐震・免震					3.0	0.48	-	-				
1 耐震性		3.0			0.80	-	-					
2 免震・制振性能		3.0			0.20	-	-					
2.2 部品・部材の耐用年数		3.7			0.33	-	-					
1 躯体材料の耐用年数		5.0			0.23	-	-					
2 外壁仕上材の補修必要間隔		4.0			0.23	-	-					
3 主要内装仕上材の更新必要間隔		4.0			0.09	-	-					
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0			0.08	-	-					
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		3.0			0.15	-	-					
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0			0.23	-	-					

2.3 適切な更新	2.4 信頼性			3.0	0.19	-	-		
	1	空調・換気設備		3.0	0.20	-	-		
	2	給排水・衛生設備		3.0	0.20	-	-		
	3	電気設備		3.0	0.20	-	-		
	4	機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-		
	5	通信・情報設備		3.0	0.20	-	-		
	3 対応性・更新性			3.0	0.29	3.3	1.00		3.2
3.1 空間のゆとり	1	階高のゆとり	-	-	3.6	0.50			
		2	空間の形状・自由さ	-	-	4.0		0.60	
				-	-	3.0		0.40	
	3.2 荷重のゆとり		-	-	3.0	0.50			
	3.3 設備の更新性		3.0	1.00	-	-			
	1	空調配管の更新性	3.0	0.17	-	-			
	2	給排水管の更新性	3.0	0.17	-	-			
	3	電気配線の更新性	3.0	0.11	-	-			
	4	通信配線の更新性	3.0	0.11	-	-			
	5	設備機器の更新性	3.0	0.22	-	-			
	6	バックアップスペースの確保	3.0	0.22	-	-			
	Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-		-	3.1
	1 生物環境の保全と創出			2.0	0.30	-		-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮			4.0	0.40	-	-	4.0		
3 地域性・アメニティへの配慮			3.0	0.30	-	-	3.0		
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		3.0	0.50	-	-				
3.2 敷地内温熱環境の向上		3.0	0.50	-	-				
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.4		
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.8		
1 建物の熱負荷抑制			3.0	0.40	-	-	3.0		
2 自然エネルギー利用			3.5	0.20	-	-	3.5		
2.1 自然エネルギーの直接利用		3.0	0.50	-	-				
2.2 自然エネルギーの変換利用		4.0	0.50	-	-				
3 設備システムの高効率化			4.8	0.40	-	-	4.8		
集合住宅以外の評価(ERRIによる評価)		#VALUE!	5.0		-				
集合住宅の評価			4.8		-				
4 効率的運用			-	-	-	-	-		
4.1 モニタリング			3.0	-	-	-			
4.2 運用管理体制			3.0	-	-	-			
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	2.9		
1 水資源保護			3.0	0.15	-	-	3.0		
1.1 節水			3.0	0.40	-	-			
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-			
1		雨水利用システム導入の有無	3.0	1.00	-	-			
2		雑排水等利用システム導入の有無	3.0	-	-	-			
2 非再生性資源の使用量削減			3.0	0.63	-	-	3.0		
2.1 材料使用量の削減			3.0	0.07	-	-			
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.24	-	-			
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.20	-	-			
2.4 非構造材料におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.20	-	-			
2.5 持続可能な森林から産出された木材			3.0	0.05	-	-			
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			3.0	0.24	-	-			
3 汚染物質含有材料の使用回避			2.6	0.22	-	-	2.6		
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.32	-	-			
3.2 フロン・ハロンの回避			2.5	0.68	-	-			
1		消火剤	-	-	-	-			
2		発泡剤(断熱材等)	2.0	0.50	-	-			
3		冷媒	3.0	0.50	-	-			
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.3		
1 地球温暖化への配慮			4.1	0.33	-	-	4.1		
2 地域環境への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0		
2.1 大気汚染防止			5.0	0.25	-	-			
2.2 温熱環境悪化の改善			2.0	0.50	-	-			
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.0	0.25	-	-			
1		雨水排水負荷低減	3.0	0.25	-	-			
2		汚水処理負荷抑制	3.0	0.25	-	-			
3		交通負荷抑制	4.0	0.25	-	-			
4		廃棄物処理負荷抑制	2.0	0.25	-	-			
3 周辺環境への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0		
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-			
1		騒音	3.0	0.33	-	-			
2		振動	3.0	0.33	-	-			
3		悪臭	3.0	0.33	-	-			
3.2 風害・砂塵・日照阻害の抑制			3.0	0.40	-	-			
1		風害の抑制	3.0	0.70	-	-			
2		砂塵の抑制	3.0	-	-	-			
3		日照阻害の抑制	3.0	0.30	-	-			
3.3 光害の抑制			3.0	0.20	-	-			
1		屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	3.0	0.70	-	-			
2		屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	3.0	0.30	-	-			

CASBEE® 熊本《新築》【配慮事項】

4 設計上の配慮事項

総合

注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。

- ・周辺の景観と調和した、落ち着いた色彩とする。
- ・屋外には、植栽を配置して、周囲の景観向上に努める。

Q1 室内環境

注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。

- ・床や壁の遮音性に配慮した仕様とする。
- ・十分な開口面積を確保することで、明るく風通しの良好な室内環境とする。
- ・開口部にはカーテンを設置し、直射日光を遮り安定した光を取り入れる。
- ・極力F☆☆☆☆の材料を使用し、室内の化学汚染に考慮する。

Q2 サービス性能

注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。

- ・排水縦管には適切な位置・階に掃除口を設け、メンテナンス性を考慮する。
- ・配管、配線は更新性に優れた材料や工法を採用する。

Q3 室外環境（敷地内）

注) 「Q3 室外環境（敷地内）」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。

- ・できるだけ、緑地スペースを確保する。
- ・周辺の街並みを考慮した景観とする。

LR1 エネルギー

注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。

- ・照明器具は、LED照明を採用し、エネルギーの高効率化を図る。

LR2 資源・マテリアル

注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。

- ・積極的に節水器具を使用する。
- ・構造体と仕上材を分離しやすい仕様とする。

LR3 敷地外環境

注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。

- ・浸透性アスファルト舗装により、できるだけ雨水を土に返す。
- ・広告物照明を採用しない。
- ・適切な広さのゴミ置場を設置する。

その他

注) 上記の6つのカテゴリ以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。

熊本県重点評価結果スコアシート

実施設計段階

建物名称 グランドオーク千葉城町

■評価ソフト: CASBEE-NCb_2010(v1.3)_kmt2011(v1.0)

■使用評価マニュアル: CASBEE熊本《新築》2011年版

★熊本県重点評価結果				総合評価点		82.9
重点事項				評価点	重点事項 重み係数	評価配点
重点項目(配慮項目)		スコア	重み 係数			
① 温室効果ガス排出量削減の推進				93.5	0.40	37.40
Q1-2.1.3	外皮性能	3.0	0.15			
Q1-3.1.3	昼光利用設備	3.0	0.00			
Q1-3.2.2	昼光制御	2.0	0.00			
LR1-1	建物の熱負荷抑制	3.0	0.15			
LR1-2	自然エネルギー利用	3.5	0.20			
LR1-3	設備システムの高効率化	4.8	0.30			
LR2-2.1	材料使用量の削減	3.0	0.10			
LR3-2.3.3	交通負荷抑制	4.0	0.10			
② 安全安心で暮らしやすい社会の実現				67.5	0.20	13.50
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	3.0	0.25			
Q2-2.1.1	耐震性	3.0	0.25			
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.15			
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	3.0	0.20			
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	2.0	0.15			
③ 県の地域資源の有効活用と保全				80	0.20	16.00
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	4.0	0.20			
LR2-1.1	節水	3.0	0.30			
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	3.0	0.20			
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	3.0	0.30			
④ 循環型社会の実現				80.2	0.20	16.04
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	3.7	0.30			
Q2-3	対応性・更新性	3.0	0.30			
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10			
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			
LR2-2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			

■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

◆総合評価結果

総合評価点 = (各重点事項の評価点 × 各重点事項の重み係数) の総和
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

◆各重点事項(①～④の項目)

評価点 = (各重点項目のスコア × 各重点項目の重み係数) の総和 × (5/4) × 20

※重み係数の総和は、「1」であること。

※(5/4) × 20 : スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数